

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	南山大学
設置者名	南山学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令 で定 める 基準 単位 数	配 置 困 難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
人文学部	キリスト教学科	夜・ 通信	203	2	2	207	13	
	人類文化学科	夜・ 通信	197	2	8	207	13	
	心理人間学科	夜・ 通信	192	2	13	207	13	
	日本文化学科	夜・ 通信	201	2	4	207	13	
外国語学部	英米学科	夜・ 通信	205	0	2	207	13	
	スペイン・ラテンアメリカ学科	夜・ 通信	185	0	22	207	13	
	フランス学科	夜・ 通信	207	0	0	207	13	
	ドイツ学科	夜・ 通信	207	0	0	207	13	
	アジア学科	夜・ 通信	207	0	0	207	13	
経済学部	経済学科	夜・ 通信	192	0	16	207	13	
経営学部	経営学科	夜・ 通信	183	0	24	207	13	
法学部	法律学科	夜・ 通信	192	0	15	207	13	
総合政策学部	総合政策学科	夜・ 通信	177	0	30	207	13	
理工学部	ソフトウェア工学科	夜・ 通信	203	2	2	207	13	
	データサイエンス学科	夜・ 通信	203	2	2	207	13	

	電子情報工学科	夜・通信	166	2	11	179	13	
	機械システム工学科	夜・通信	177	2	0	179	13	
	ソフトウェア工学科(旧)	夜・通信	205	2	0	207	13	
	システム数理学科	夜・通信	177	2	0	179	13	
	機械電子制御工学科	夜・通信	177	2	0	179	13	
国際教養学部	国際教養学科	夜・通信	153	0	10	163	13	
(備考)「ソフトウェア工学科(旧)」、2020年度入学生までが該当し、2021年度以降の入学生は「ソフトウェア工学科」該当します。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

教務課 Web ページ内のシラバス検索で「実務経験のある」というキーワード検索が可能
<https://office.nanzan-u.ac.jp/KYOUUMU/course-class/class08.html>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 (該当なし)
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	南山大学
設置者名	南山学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

Web ページ学園概要の「役員一覧」にて公表
<https://www.nanzan.ac.jp/outline/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	宗教法人 代表役員 修道会日本管区長	2023. 12. 11 ～ 2026. 12. 10	設置母体による 経営全般への助言
非常勤	宗教法人 代表役員 修道会日本管区長	2022. 6. 1 ～ 2025. 5. 31	設置母体による 経営全般への助言
非常勤	宗教法人 法人事務局 会計	2023. 4. 1 ～ 2026. 3. 31	宗教関係事業全般
非常勤	株式会社 代表取締役 社長	2024. 2. 1 ～ 2027. 1. 31	経営・企画全般
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	南山大学
設置者名	南山学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
授業計画(シラバス)記載項目の留意点および記載例を各科目担当教員に配付し、コーディネータは自身の担当するコーディネータ科目の全シラバスの内容確認を行う。なお、単なる編集上の確認(記載内容の有無や語句修正等)だけでなく、カリキュラムポリシーに基づいた確認を実施している。 授業計画(シラバス)の作成過程： ・前年度11月末ごろに授業のコーディネータに説明を実施 ・各授業の担当教員は12月～1月中旬までにシラバスを登録 ・登録後は第三者としてコーディネータが内容確認を実施、2月上旬に校了。教務課での校正などを経て、Webでのシラバス公開は3月上旬。	
授業計画書の公表方法	(教務課 Web ページ) http://office.nanzan-u.ac.jp/KYOUUMU/course-class/course05.html
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

授業計画（シラバス）に記載された成績評価の方法・基準のとおり各授業科目の学修成果の評価を行い、これに基づき、単位の認定授与または履修の認定を行っている。成績付与に関しては履修規程および試験規程にて定めている。

南山大学公式 Web ページ 教務課 Web ページ 「履修要項・履修案内等」

■履修要項 2024 年度入学者用 「南山大学授業科目履修規程」第 6 章 履修成績および単位の授与、「南山大学試験規程」の履修要項内に記載

<https://office.nanzan-u.ac.jp/KYOUNU/course-class/rishuyoko01.html>

3. 成績評価において、G P A 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

学生の成績を数値化した GPA (Grade Point Average) を用いた制度を導入しており、算出方法をあらかじめ設定し、成績ごとの配点や計算式、履修中止の取扱い等について学生に公表している。GPA とは、本学で成績評価に用いられてきた成績に対応した Grade Point (GP) を用い、履修した科目成績の平均を出すものであり、学期 GPA、通算 GPA の 2 種類がある。なお、GPA の算出除外科目は次のとおりである。

- ・ PF 評価方式科目
- ・ 認定科目（編・転入、転部・転科、留学、外国語能力試験 等）
- ・ 履修中止科目
- ・ 卒業要件に算入しない科目

・「客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料」は別添

客観的な指標の
算出方法の公表方法

(教務課 Web ページ)

<https://office.nanzan-u.ac.jp/KYOUNU/exam-grade/grade03.html>

(履修要項 P.262)

https://office.nanzan-u.ac.jp/KYOUNU/course-class/item/2024_gakubu.pdf

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 大学は卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、これを基に各学部・学科は卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定めて、Web 等により公表している。 南山大学の卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）は以下のとおり。 「南山大学は、キリスト教世界観に基づく学校教育を行うことを、その建学の理念としています。この理念の下、「人間の尊厳のために」（Hominis Dignitati）という教育モットーを掲げ、幅広い教養の上に各学部の専門性に応じた知識および能力をもち、人間の尊厳を尊重しかつ推進する人材を育成することを目的としています。この目的に照らして、以下の能力を身につけた者に学士の学位を授与します。 ・人種、障がい、宗教、文化、性別など様々な違いを認識し、受容するための基礎となる教養 ・多様性を前提とした人間の尊厳、他者の尊厳を尊重する力 ・多様な人々との共生、協働を可能にするコミュニケーション能力 ・世界における様々な問題を解決するために必要な専門知識や総合的判断力、ならびに、解決に寄与する新たな価値を創造する力 ・地球規模と地域の双方の視点に立って、先入観にとらわれることなく人々と交流することのできる国際性」 南山大学では、卒業の認定に関する方針および卒業要件（4 年以上在学して学部学科所定の単位を修得）を満たす者について、学部教授会、大学評議会の審議を経て、学長が卒業を認定している。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	公表方法：Web で公開 https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/hoshin/policy_university.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	南山大学
設置者名	南山学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.nanzan.ac.jp/data/management.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.nanzan.ac.jp/data/management.html
財産目録	https://www.nanzan.ac.jp/data/management.html
事業報告書	https://www.nanzan.ac.jp/data/management.html
監事による監査報告(書)	https://www.nanzan.ac.jp/data/management.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 学校法人南山学園事業計画書 対象年度: 2024)
公表方法: https://www.nanzan.ac.jp/data/management.html
中長期計画(名称: 学校法人南山学園中期計画 対象年度: 2020~2024)
公表方法: https://www.nanzan.ac.jp/data/mtp.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: Web で公開 https://office.nanzan-u.ac.jp/kyoken/naibusitsuhosho/jikoten/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: Web で公開 https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/ninsho/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人文学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/ 規程・学則「南山大学の目的に関する規程」）
（概要） 人文学部は、建学の精神であるキリスト教世界観に立脚し、「人間とは何か」「人生とは何か」「人と人の対話はいかになされるべきか」といった根元的な問題を深く考えることと同時に、人文学の専門分野を深く追究しながら、幅広い教養的知識と人間に関する深い洞察力を養えるよう教育を行うことを目的としている。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foh.html）
（概要） 人文学部では、南山大学の建学の理念に基づく「人間の尊厳のために」(Hominis Dignitati)という教育モットーを踏まえつつ、現代の複雑化した社会と人間関係の中で、主体的に考え判断しながら生きていく力をもった人材の育成を目的としています。そのために、それぞれの学科の教育課程を通して、以下の能力を身につけた者に、学士（人文学）の学位を授与します。 ・文化、歴史、社会、および人間のあり方に関する幅広い教養を背景として、現代の問題状況を洞察・理解する能力 ・多様な他者を柔軟なコミュニケーションを通して理解し、受け入れる能力
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foh.html）
（概要） 人文学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を養成するために、共通教育科目、学部共通科目、学科科目を配置します。 共通教育科目では、大学のディプロマ・ポリシーに示す能力を養成します。 人文学部共通科目では、超領域演習などの学科の垣根を越えた人文科学の横断的・総合的な科目を配置し、背景の異なる他者とともに成長しながら自分たちの現状をよりよくしていこうとする能力を涵養します。そのほか人文学部共通科目には、異文化研修短期留学プログラム、キャリア教育関連科目や教職、博物館学芸員、図書館司書・学校図書館司書教諭などの資格関連科目が含まれます。 1 年次には、その後の学修の基礎となる外国語科目や共通教育科目に加えて、基礎演習Ⅰを配し、論文を読んだり、レポートを書いたりする技術のみならず、グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能を磨きます。また、人文学諸領域への入口に当たる各学科開講の入門科目、概論科目も 1 年次から履修可能です。 2 年次には、入門科目、概論科目、基礎演習Ⅱをはじめとする多様な学科科目を履修することによって、言語や文化、社会や歴史、および人間のあり方に関する幅広い教養を身につけ、現代人、現代社会が抱えるさまざまな問題を洞察し理解する能力を養います。さらに、各自がどの領域をより深く追究してゆくかという方向性を見極め、3・4 年次における演習での学修に備えます。 3・4 年次には、少人数制の演習をカリキュラムの中心に据え、より専門性の高い学修を進めるとともに、主にアクティブラーニング的手法によって、1・2 年次で養ってきた技能をさらに磨きます。さらに、4 年次には各自が選んだテーマで研究プロジェクトを推進し、4 年間の学修の集大成としての研究報告論文（卒業論文）を執筆します。 各科目の学修成果は、講義概要に示された到達目標の達成度に応じて評価します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foh.html>)

(公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/admission/nyushi/shubetsu/pdf/download_2025/2025gakkou_suisen.pdf?240604)

(概要)

人文学部では、大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本学部の教育課程を修めるために十分な基礎学力を備えていることに加えて、以下の資質を持つ人を受け入れるために、一般入試、全学統一入試、共通テスト利用入試、推薦入学審査（学園内高等学校、指定校、特別協定校）、特別入学審査（カトリック系高等学校等対象）等の試験・審査を実施します。

- ・文化、歴史、社会、および人間のあり方についての知的関心をもっている人
- ・自己や他者との対話を通して成長してゆこうとする主体性と協調性をもっている人

一般入試、全学統一入試および共通テスト利用入試では、各学科で学ぶための前提となる基礎学力を特に評価します。

推薦入学審査および特別入学審査では、基礎学力、各学科で学ぶ目的の明確性と意欲、志望する領域についての知識の程度、口頭および文章による表現力を特に評価します。加えて、特別入学審査では、高等学校在学中における諸活動への取り組みも評価します。

学校推薦型選抜（長期留学経験者対象）では、高等学校在学中の長期留学で得られた高い外国語運用能力と異文化に対する理解や関心を小論文・面接などで評価します。

外国高等学校卒業者等入学試験、外国人留学生入学審査および外国人留学生推薦入学審査（指定校）では、主に日本語と英語の運用能力および本学部において勉学する目的の明確さや適性について評価します。

高校時の海外体験とそれに基づく高い言語運用能力を持つ生徒を受け入れるため、2024年度入試より、日本国内の高等学校在学中に継続して1学年（10か月程度）以上、留学した経験を持つ者を対象に、学校推薦型選抜（長期留学経験者対象）を開始している。

学部等名 外国語学部

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/>
規程・学則「南山大学の目的に関する規程」）

(概要)

外国語学部は、英米学科、スペイン・ラテンアメリカ学科、フランス学科、ドイツ学科、アジア学科という5学科を備え、各学科の専攻言語の習熟とともにそれらの言語が使われている地域についての体系的で包括的な知識を有し、今日のグローバルな社会において活躍できる人材の養成を主たる目的としている。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fof.html>)

(概要)

外国語学部では、南山大学の建学の理念に基づく「人間の尊厳のために」（*Homini Dignitati*）という教育モットーを踏まえつつ、高度にグローバル化した現代社会の各分野で活躍し、多文化共生社会の構築に寄与できる人材の育成を目指します。そのために、各学科において、外国語教育と地域研究の2つを軸とするカリキュラムを設置し、以下の知識と能力を身につけた学生に学士（外国研究）の学位を授与します。

- ・専門とする外国語で情報を収集し、自らの立場や意見を明確に述べることができる高度な外国語運用能力
- ・専門とする地域についての多分野（言語、文化、歴史、政治、社会など）にわたる知識をもとにした問題解決能力
- ・グローバルな視野に基づく柔軟な異文化理解能力と、物事を多面的かつ緻密に分析できる洞察力

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fof.html>)

(概要)

外国語学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を養成するために、共通教育科目、学部共通科目、学科科目を配置します。また、外国語教育と地域研究教育の2つを軸とするカリキュラムを編成します。

共通教育科目では、大学のディプロマ・ポリシーに掲げる能力を養成します。

学部共通科目では、自らの専門とする国や地域を越えた世界情勢や国際関係についての視野を広げるとともに、多様な学問分野における研究の方法論を習得します。また、キャリア教育として、キャリアデザインに関する科目を設置して、学生が主体的に人生設計を行うことをうながします。

各学科の学科科目では、1年次と2年次の基礎教育では、問題解決能力の基礎を涵養するとともに、高度な外国語運用能力を培います。

専門教育として、専門とする国や地域の文化や社会についての豊かな知識を身につけます。この知識を前提として地域研究に取り組むことにより、問題解決能力を養成します。

カリキュラム全体を通してアクティブ・ラーニング（能動的学習）を取り入れ、学生の主体的な学びを積極的に評価します。

各科目の学修成果は、講義概要に示された到達目標の達成度に応じて評価します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fof.html>)(公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/admission/nyushi/shubetsu/pdf/download_2025/2025gakkou_suisen.pdf?240604)

(概要)

外国語学部では、大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本学部の教育課程を修めるために十分な基礎学力を備えていることに加えて、以下の資質を持つ人を受け入れるために、一般入試、全学統一入試、共通テスト利用入試、推薦入学審査（学園内高等学校、指定校、特別協定校）、特別入学審査（カトリック系高等学校等対象）、総合型入試（資格・検定試験活用型、講義体験型）、外国高等学校卒業者等入学試験、外国人留学生入学審査等の試験・審査を実施します。

- ・世界各地のさまざまな言語、文化、社会に対して強い関心と学習意欲を持つ人

- ・異文化に対する開かれた姿勢を持ち、文化や価値観の多様性を尊重するとともに、積極的に他者と協働して学ぶための協調性を備えた人

- ・入学後の学びの基礎となる中等教育の諸教科についての基礎知識を有するとともに、問題を解決するための思考力、判断力、表現力を備えた人

一般入試、全学統一入試および共通テスト利用入試では、各学科・専攻で学ぶための前提となる基礎学力、とりわけ外国語、国語、日本と世界の歴史についての知識を主に評価します。一般入試の外国語試験においてリスニングテストを課して英語の運用能力も評価します。

推薦入学審査および特別入学審査では、書類、小論文および面接によって、基礎学力に加えて、志望する学科・専攻において勉学する目的の明確性や、専門領域に関する知識の程度、ならびに口頭および文章による表現力や論理的思考力、判断力を評価します。加えて、特別入学審査では、高等学校在学中における諸活動への取り組みも評価します。

総合型入試（資格・検定試験活用型）では、書類審査、小論文および面接によって、専門領域に関する知識や、表現力、論理的思考力、判断力に加えて、主体的に外国語を学ぶ姿勢や、異文化を受け入れ多様な人々と協働する能力、ならびに学科・専攻のカリキュラムとの適性を総合的に判断して評価します。

総合型入試（講義体験型）では、体験授業課題レポート、口頭試問および書類審査によって、主体的、自主的に学ぶ姿勢や、ものごとを論理的、多面的に考察する能力、自らの考えを体系的に整理して伝える能力、ならびに学科・専攻のカリキュラムとの適性を総合的に判断して評価します。

学校推薦型選抜（長期留学経験者対象）では、高等学校在学中の長期留学で得られた高い

外国語運用能力と異文化に対する理解や関心を小論文・面接などで評価します。
外国高等学校卒業生等入学試験、外国人留学生入学審査および外国人留学生推薦入学審査（指定校）では、主に日本語と英語の運用能力および本学部において勉学する目的の明確さや適性について評価します。

高校時の海外体験とそれに基づく高い言語運用能力を持つ生徒を受け入れるため、2024年度入試より、日本国内の高等学校在学中に継続して1学年（10か月程度）以上、留学した経験を持つ者を対象に、学校推薦型選抜（長期留学経験者対象）を開始している。

学部等名 経済学部

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/>
規程・学則「南山大学の目的に関する規程」）

（概要）

経済学部は、本学の教育モットーである「人間の尊厳のために」の精神に基づいて普遍的な人間理解と寛容性の養成に役立つ教養教育を行うとともに、経済学の基礎の正確な修得の上に各専門分野における発展的知識・分析力の修得と応用能力の育成をめざした教育を行う。本学部における教育を通して、国際化がすすむ現代社会において国際人としての自覚と幅広い教養の上に経済の専門的知識と応用能力を活かして積極的に活躍できる人材を養成する。

卒業又は修了の認定に関する方針

（公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foe.html>）

（概要）

経済学部では、南山大学の建学の理念に基づく「人間の尊厳のために」(Hominis Dignitati)という教育モットーを踏まえつつ、経済学の専門的な知識を修め、国際社会における経済活動に求められる幅広い視野と実践力を備えた人材を育成します。そのために、以下の能力を身につけた者に学士（経済学）を授与します。

- ・経済学の理論・実証、国内外の経済事情、経済の歴史・思想に関して理解する能力
- ・経済分析、経済政策、国際経済、経済史・経済思想の複数分野における学習により修得した、現実の経済問題を社会全体の広い文脈に位置づけながら分析・検討・議論できるだけの思考力と表現力

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foe.html>）

（概要）

経済学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を養成するために、共通教育科目、学科科目を配置します。

共通教育科目では、大学のディプロマ・ポリシーに示す能力を養成します。

経済学科科目では、経済学を中心とした社会科学の基本を学ぶための科目、専門分野を外書で学ぶ経済外国語科目、各自の将来のキャリアを考え国際社会における英語でのコミュニケーション能力を身につける社会人基礎力科目を配置します。

特に定量的なアプローチを重視し、学科科目を構成します。1年次においては、経済学の基礎理論を修得する「マクロ経済学」「ミクロ経済学」、経済学の理解に必要な数学的知識を修得する「経済学のための数学」、統計的資料の基本的扱いを学ぶ「データ処理入門」等の講義科目のほか、資料・文献の報告及び議論の手法を学ぶための経済基礎演習を必修科目とします。

2年次以降は、経済学を中心とした社会科学を学ぶ専攻分野科目、経済外国語科目、社会人基礎力科目等を通じて、経済問題を社会全体の広い文脈に位置づけながら検討、議論する思考力と表現力を育てます。さらに3年次以降の経済専門演習では、社会で求められる発想力や論理的思考力、自己表現力を、卒業論文の作成を通じて涵養します。

各科目の学修成果は、講義概要に示された到達目標の達成度に応じて評価します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法 : https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foe.html)
(公表方法 : https://www.nanzan-u.ac.jp/admission/nyushi/shubetsu/pdf/download_2025/2025gakkou_suisen.pdf?240604)
(概要) 経済学部では、大学のアドミッション・ポリシーに基づき、経済学を中心とした社会科学の教育を通じて、世界の現実を理解し社会に貢献する国際的人材の育成を目指しています。カリキュラム・ポリシーに沿った教育を通じて、経済・社会問題の本質を理解するための専門的知識と思考力を修得し、仕事、人生、社会の中で役立てるとともに、多様な価値観を許容し、自己と他者の尊厳を重んじる力を身につけられる学生を求めます。そのため、経済・社会問題に関する文献を読みこなす思考力、理論的・実証的モデルを理解し得る計算能力と、日本や世界の歴史や文化、地理的特性に関する基礎知識に加えて、さらに以下のような資質を有する人を受け入れるために、一般入試、全学統一入試、共通テスト利用入試、推薦入学審査（学園内高等学校、指定校、特別協定校）、特別入学審査（カトリック系高等学校等対象）、社会人入学審査等の試験・審査を実施します。 ・社会・経済に強い関心を有し、経済学部で学ぶ知識を用いて社会に貢献したいと考えている人、またそのための準備となる経験・技能を、企業や公共団体、NPO 等各種組織・団体における活動などを通じて、身につけている人 ・自分の意見や知識を組み立て、伝えることのできる、論理的思考力と文章表現力を持つ人 一般入試、全学統一入試および共通テスト利用入試では、経済学部で学ぶための前提となる基礎学力、とりわけ外国語、国語、数学、歴史についての知識を主に評価します。推薦入学審査および特別入学審査では、高等学校における学業の成績や社会的活動の経験に加えて、小論文と面接により、表現力、論理的思考力、大学での学習意欲等を評価します。加えて、特別入学審査では、高等学校在学中における諸活動への取り組みも評価します。 社会人入学審査では、経済学部で学ぶ明確な目的と意欲、口頭および文章による表現力を面接や小論文などを通じて評価します。 学校推薦型選抜（長期留学経験者対象）では、高等学校在学中の長期留学で得られた高い外国語運用能力と異文化に対する理解や関心を小論文・面接などで評価します。 外国高等学校卒業等入学試験、外国人留学生入学審査および外国人留学生推薦入学審査（指定校）では、主に日本語と英語の運用能力および経済学部において勉学する目的の明確さや適性について評価します。 高校時の海外体験とそれに基づく高い言語運用能力を持つ生徒を受け入れるため、2024年度入試より、日本国内の高等学校在学中に継続して1学年（10か月程度）以上、留学した経験を持つ者を対象に、学校推薦型選抜（長期留学経験者対象）を開始している。

学部等名 経営学部
教育研究上の目的（公表方法 : https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/規程・学則「南山大学の目的に関する規程」）
(概要) 経営学部は、現代経営学における基本的領域を広範に学んだ上で、経営倫理ならびに社会的責任を全うすることができ、本学の教育のモットーである「人間の尊厳のために」を体現した学生を養成することを目的とする。また、このような人材を国際社会および地域社会の発展に寄与するために世に送り出すことを社会的使命とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fob.html)

(概要) 経営学部では、南山大学の建学の理念に基づく「人間の尊厳のために」(Hominis Dignitati)という教育モットーを踏まえつつ、経営学とその周辺の学問を修め、国際化・高度情報化が進むビジネス社会において活躍できる人材を育成します。そのために、以下の能力を身につけた者に学士(経営学)の学位を授与します。 ・社会において組織体がどのように構成され、どのような機能を果たしているのかを理解し、地球環境の保全と持続可能な社会の発展に寄与しつつ、組織運営のための効率的な経営方策を考える力 ・広い視野から社会現象を捉える発想や思考の枠組み、情報を分析し活用する技能を修得することにより、経営に係わる問題点を発見し、その解決に寄与する新たな価値を創造することによって、的確な経営判断が下せる力、企業経営における倫理観を身につけ、自己の判断において地球規模と地域の双方の視点に立って社会的責任を全うできる力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fob.html)
(概要) 経営学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を養成するために、共通教育科目、学科科目を配置します。 共通教育科目では、大学のディプロマ・ポリシーに示す能力を養成します。 経営学科科目では、経営判断力を高めるための経営学の基本的な4つのコア専門領域である組織・労務、財務・ファイナンス、マーケティング・流通、および会計の科目を配置します。同時に、国際化・高度情報化が進むビジネス社会で必要となる実践的な技能を修得するための科目や経営倫理に関する科目も配置します。学びの体系として、経営学の入門的な科目を基礎に上記の4つの領域と実践的な技能を習得するための科目を幅広く配置します。学生はこれらの多様な科目の中から、段階的に経営学の基礎知識を学び、そのうえで4つの分野のうちから選択した分野について応用的かつ発展的知識を学ぶことができるように、カリキュラムを編成します。 1・2年次には「基礎演習」および「プレゼミ」科目を、そして3・4年次には少人数ゼミナールである「経営学演習」および「卒業研究」科目を配置します。これらの科目では、担当教員が学生指導にあたることによってコミュニケーション能力を培い、ゼミナールのメンバーと協働しながらも、主体的に卒業研究に取り組むことを通じて、必修である卒業論文の作成へと繋がります。 上記に示した科目に加えて、実社会における企業の業務について学ぶために、実務家教員による講義科目も配置します。また、英語コミュニケーション能力を高めるために、ビジネス英語科目や英語による講義科目および短期留学プログラムも配置します。 各科目の学修成果は、講義概要に示された到達目標の達成度に応じて評価します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fob.html) (公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/admission/nyushi/shubetsu/pdf/download_2025/2025gakkou_suisen.pdf?240604)
(概要) 経営学部では、大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本学部の教育課程を修めるために十分な基礎学力を備えていることに加えて、以下の資質を持つ人を受け入れるために、一般入試、全学統一入試、共通テスト利用入試、推薦入学審査(学園内高等学校、指定校、特別協定校)、特別入学審査(カトリック系高等学校等対象)、総合型入試(資格・検定試験活用型)等の試験・審査を実施します。 ・経営学領域の実践的な学習・研究の積み重ねを通じて、日本の将来を拓くビジネス・パーソンを目指す人 ・産業界で活躍するために必要な高度専門技能の修得を通じて、ビジネス界で即戦力として活躍することを考えている人 ・国家資格を取得し、税理士や公認会計士、国税専門官などのプロフェッションを目指す人

一般入試、全学統一入試および共通テスト利用入試では、経営学を学ぶための基盤となる基礎的な知識と能力（国語、英語、歴史、数学）が養われているかを評価します。また、一般入試では、英語または数学を重視する2つの方式を実施することで、資質の多様な入学者を受け入れます。

推薦入学審査および特別入学審査では、グループ面接や志願書類を通じて主体性や多様性、協働性を評価します。また、経営や経済の課題解決を内容とする小論文を課します。小論文を通じて思考・判断・表現を行うなかで、それに必要な知識や技能を有しており、それらを適切に活用する能力が獲得されているかを評価します。加えて、特別入学審査では、高等学校在学中における諸活動への取り組みも評価します。合格者に対しては入学前学習として、数学の問題演習課題、および推薦図書に関する読書レポートの提出を求めます。総合型入試（資格・検定試験活用型）では、上記の評価項目に加えて、本学部が指定する資格等の取得を通じて得られた知識や技術および本学部の教育内容との適性を総合的に評価します。

学校推薦型選抜（長期留学経験者対象）では、高等学校在学中の長期留学で得られた高い外国語運用能力と異文化に対する理解や関心を小論文・面接などで評価します。

外国高等学校卒業者等入学試験および外国人留学生入学審査では、主に日本語と英語の運用能力および本学部において勉学する目的の明確さや適性について評価します。

高校時の海外体験とそれに基づく高い言語運用能力を持つ生徒を受け入れるため、2024年度入試より、日本国内の高等学校在学中に継続して1学年（10か月程度）以上、留学した経験を持つ者を対象に、学校推薦型選抜（長期留学経験者対象）を開始している。

学部等名 法学部

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/> 規程・学則「南山大学の目的に関する規程」）

（概要）

法学部は、キリスト教世界観に基づく建学の精神に立脚して人間性の涵養につとめるとともに、広い教養と関連諸科学の理解に基礎づけられた法的思考の育成を目標とし、法を中心とした社会的諸現象の体系的研究と実践的教育を実施して、法の基礎的理論と応用に通ずる人材を養成し、これに期待する地域社会の強い要請にこたえ、もってわが国の文化の進展と福祉に寄与することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針

（公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foj.html>）

（概要）

法学部では、南山大学の建学の理念に基づく「人間の尊厳のために」（*Hominis Dignitati*）という教育モットーを踏まえつつ、基本法律科目およびその他の学科科目を通して、法治国家において求められる「法的思考力」を持った人材を育成することを目指します。そのために、以下の能力を身につけた学生に学位（法学）を授与します。

- ・優れた法的思考力および人権、公私の区別、組織などの社会制度を理解し、その枠組みにおいて適切に調整・交渉することができる能力
- ・社会における様々な問題について、法的な観点から原因を究明する能力
- ・それら問題について、専門的知見と人権感覚に裏付けられた多くの解決策を考案し提示するための弁論能力、交渉能力および調整能力
- ・国家規範の構造、制定法の内容とその基礎にある原理・原則、法を運用する機関を理解する能力
- ・法的判断の基礎にある論理性、説得性、そして様々な文化や価値観の多様性を理解する能力

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foj.html>）

(概要)

2018 年度以前の入学生

法学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を養成するために、共通教育科目、学科科目を配置します。

共通教育科目では、大学のディプロマ・ポリシーに示す能力を養成します。

法学部では、法律学を中心に政治、経済など他の社会科学分野の科目を幅広く配置するとともに、演習科目を開講します。学生はこれらの科目を履修することによって段階的に知識を吸収して高度な法学的素養を身につけ、そのうえで演習科目によってそれら知識に基づき、法や社会の背後にある諸利益、価値を考察することを学び、法的思考力と他者との共生に不可欠な社会的適応能力を涵養します。

1 年次には、基本六法科目のうち、憲法・民法・刑法の基礎的な部分ならびに法の重要な作用である裁判についての法学の基礎を涵養します。2 年次以降には、さらに六法科目について深く学ぶとともに、国際法や国際私法などの隣接する法分野科目の学びを通してグローバル化に伴う法的問題を理解し、あるいは、基礎法科目の学びを通して法律学の根底にある哲学や歴史に関する知見を習得する科目を配置して幅広い学習を可能とします。

2 年次以降の科目では、3 つの履修モデル（ビジネス職プログラム・行政職プログラム・法律職プログラム）を設定します。

また、六法科目の中でもより専門的な内容を含む科目や、現代における先端的な法分野科目は段階的な学習が可能のように 3 年次以降に配置します。

また 1～4 年次まですべての学年ごとに、少人数の演習（ゼミナール）科目を配置し、社会における様々な問題について学生が自ら考え、意見を述べ、他者と議論を重ねることにより、文章読解・作成能力、弁論能力、交渉力等を身につけることができますようにします。1 年次の演習では、様々な法分野に触れることで、何を学びたいかを学生自らが認識します。専門的な内容を取り扱う 2 年次以降の演習では、様々な問題について自ら考え、意見を述べ、他者と議論を重ねることにより、主体的な学習能力と実践的な問題解決能力を涵養します。

また 2 年次から 4 年次には、特定のプロジェクトに集中的に取り組むことを通して問題分析スキルおよび問題解決策の考案能力を涵養するために、学年横断的に履修希望者を受け入れる「プロジェクト研究」を配置します。学生が海外の大学において、その国の言語と法律とを同時に学ぶ「海外法文化研修」を配置します。なお、法科大学院への進学や各種法律資格、国家資格を目指す学生を対象とした演習科目として、同じく 2 年次から 4 年次には「法務研究」を配置します。

各科目の学修成果は、講義概要に示された到達目標の達成度に応じて評価します。

なお、講義科目は、すべて筆記試験を用いて評価します。演習科目は筆記試験ではなく、授業参加度（演習におけるレポート、発言など）によって評価します。

2019 年度～2021 年度の入学生

法学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を養成するために、共通教育科目、学科科目を配置します。

共通教育科目では、大学のディプロマ・ポリシーに示す能力を養成します。

法学部では、法律学を中心に政治、経済など他の社会科学分野の講義科目を幅広く配置するとともに、演習科目を開講します。学生はこれらの講義科目を履修することによって段階的に知識を吸収して高度な法学的素養を身につけ、そのうえで演習科目（ゼミナール）によってそれら知識に基づき、法や社会の背後にある諸利益、価値を考察することを学び、法的思考力と他者との共生に不可欠な社会的適応能力を涵養します。

憲法、民法および刑法については、法学の基礎を涵養するために、2 年次終了時まで修得できるよう、その講義科目を配します。憲法、民法および刑法以外の法律基本科目は、卒業後の進路を見据えた発展的な学習を促すために、3 年次終了時まで修得できるよう、その講義科目を配します。

2 年次以降には、法の基礎的な理論に関する知見の修得、ならびに複雑化・国際化した現代社会で活躍できるための発展的法律知識を修得できるよう、理論的・発展的・応用的・

先端的な講義科目を配します。

すべての年次に、少人数の演習科目を配置し、社会における様々な問題について学生が自ら考え、意見を述べ、他者と議論を重ねることにより、文章読解・作成能力、弁論能力、交渉力等を身につけることができますようにします。1年次の演習科目では、様々な法分野に触れることで、何を学びたいかを学生自らが認識します。専門的な内容を取り扱う2年次からの演習科目では、様々な問題について自ら考え、意見を述べ、他者と議論を重ねることにより、主体的な学習能力と実践的な問題解決能力を涵養します。

法学部では、2年次進級時に、法曹、研究者その他の高度な法律専門職を目指す「司法特修コース」と公務員などの公的機関や民間企業などに進むことや自らの興味・関心に沿って学ぶための「行政・ビジネスコース」に分かれます。「司法特修コース」では、2年次から発展的な学習を支援するための演習科目を配し、また3年間で卒業することが可能なように、各クォーターおよび各学期の履修可能単位数の制限が緩和されています。

また、学生が海外の大学において、その国の言語と法律とを同時に学ぶ「海外法文化研修」を配置します。

各科目の学修成果は、講義概要に示された到達目標の達成度に応じて評価します。

なお、講義科目は、すべて筆記試験を用いて評価します。演習科目は筆記試験ではなく、授業参加度（演習におけるレポート、発言など）によって評価します。

2022年度以降の入学生

法学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を養成するために、共通教育科目、学科科目を配置します。共通教育科目では、大学のディプロマ・ポリシーに示す能力を養成します。法学部では、法律学を中心に政治、経済など他の社会科学分野の科目を幅広く配置するとともに、演習科目を開講します。学生はこれらの科目を履修することによって段階的に知識を吸収して高度な法学的素養を身につけ、そのうえで演習科目によってそれら知識に基づき、法や社会の背後にある諸利益、価値を考察することを学び、法的思考力と他者との共生に不可欠な社会的適応能力を涵養します。1年次は、基本法律科目の中で公法系科目、民事法系科目、刑事法系科目の一部を学ぶと共に、キャリア教育系科目で大学での学習の基礎や大学生活での注意事項などを学びます。また、演習系科目は1年次から設置されており、少人数教育の中で様々な問題について自ら考え、意見を述べ、他者と議論を重ねることにより、主体的な学習能力と実践的な問題解決能力を涵養します。

2年次進級時に、各自の目指す将来像を前提として、「法学一般コース」「法職専修コース」「司法特修コース」の中から1つ、コースを選択します。2年次からは、各コースの修得要件を参考にして、基本法律科目である公法系科目、民事法系科目、刑事法系科目だけでなく、展開・先端系科目、基礎法学・隣接系科目、政治経済系科目、国際系科目の中から様々な学科科目を履修し、学びを深めることになります。また、2年次から4年次までも継続して演習系科目を履修し、少人数教育の中で、さらに学びを深めることができます。

なお、「司法特修コース」を選択した学生は、所定の要件を充足し、必要な手続を取った上で、3年次で南山大学大学院法務研究科に進学することができる制度（早期卒業制度）を利用することができます。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foj.html>）

（公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/admission/nyushi/shubetsu/pdf/download_2025/2025gakkou_suisen.pdf?240604）

（概要）

法学部では、大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本学部の教育課程を修めるために十分な基礎学力を備えていることに加えて、以下の資質を持つ人を受け入れるために、一般入試、全学統一入試、共通テスト利用入試、推薦入学審査（学園内高等学校、指定校、特別協定校）、特別入学審査（カトリック系高等学校等対象）等の試験・審査を実施します。

- ・物事をじっくりと論理的に考えることに関心のある人

・社会の様々な問題について様々な角度から把握し分析することに関心のある人 ・人権や市民性といった諸価値を深く理解する姿勢をもつことに関心のある人 ・法律だけでなく政治や経済など関連する社会科学の分野に関心を有し、追求する意欲のある人 ・国際的な視点を含む幅広い視野を持ち、国際社会での活躍に意欲のある人 一般入試、全学統一入試および共通テスト利用入試では、本学部で学ぶための前提となる高等学校修了程度の基礎学力を主に評価します。推薦入学審査および特別入学審査では、基礎学力に加えて、社会科学に関係する基本的な語彙力、論理的思考力、文章読解力、文章表現力（口頭で述べる力も含む）を評価します。特別入学審査では、これらに加えて高等学校在学中における諸活動への取り組みも評価します。 学校推薦型選抜（長期留学経験者対象）では、高等学校在学中の長期留学で得られた高い外国語運用能力と異文化に対する理解や関心を小論文・面接などで評価します。 外国高等学校卒業等入学試験および外国人留学生入学審査では、主に日本語と英語の運用能力および本学部（本学科）において勉学する目的の明確さや適性について評価します。 高校時の海外体験とそれに基づく高い言語運用能力を持つ生徒を受け入れるため、2024年度入試より、日本国内の高等学校在学中に継続して1学年（10か月程度）以上、留学した経験を持つ者を対象に、学校推薦型選抜（長期留学経験者対象）を開始している。
--

学部等名 総合政策学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/ 規程・学則「南山大学の目的に関する規程」）
（概要） 総合政策学部は南山大学の建学の理念であるキリスト教精神と、その教育モットーである「人間の尊厳のために」という原則に従い、グローバルな文明論的視点に立つ豊かな人文主義的教養と幅広い歴史認識に基づき、国家や諸組織や諸個人がこれから遭遇する未知の問題の本質をいち早く見抜く能力を備えるとともに、総合的かつ緻密な状況分析に基づく迅速な意思決定と実現可能な政策立案に基づく実践的な行動をとることができるような自立精神と感受性に富む人材の養成を目的とし、それを支援するような教育と研究を行う。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fop.html）
（概要） 総合政策学部では、南山大学の建学の理念に基づく「人間の尊厳のために」（<i>Hominis Dignitati</i>）という教育モットーを踏まえつつ、文明論と政策論を中心に修め、政策立案および運用において、幅広い視野と実践力を備えた、リーダーシップを持つ人材を育成します。具体的には、そのために、以下の能力を身につけた者に学士（総合政策学）の学位を授与します。 ・文明論の観点から、地域固有の歴史、文化、宗教、社会、自然などを正しく理解し、多様な価値観を尊重しつつ、異なる価値相互の違いや問題性を的確に認識できる力 ・多種多様な人々が、違いを認め合いながら共存、協働できるようになるための新たな文明論的価値を創造しつつ、積極的に問題解決に取り組む力 ・多角的視点にたち、社会科学の幅広い基礎知識や分析手法、フィールドワークの技法などを身につけることにより、複合的な問題の諸要因を総合的に分析・整理し、問題解決への糸口や手がかりを発見する力 ・国際政策、公共政策、環境政策という3コースそれぞれに特化した専門的知識やスキルを駆使することにより、複合的な問題の解決に向けた具体的な政策を立案できる力 ・総合性としての普遍的観点と、専門性としてのより深い実践的観点とを融合させながら、諸問題の解決を通して持続可能な社会に貢献できる力
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fop.html）

(概要)

総合政策学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を養成するために、共通教育科目、学科科目を配置します。

共通教育科目では、大学のディプロマ・ポリシーに示す能力を養成します。

総合政策学部では、多様化し複雑化する現代社会の諸問題を多角的な視点から認識・分析し、解決に導く能力とスキルを養うことを目標とします。その実現のために学びの体系として、文明論をカリキュラムの根幹に配置し、人間と社会の価値に関わる根本的な諸関係を学びます。共通教育科目を通じて習得した一般教養の知識が、文明論をより広範囲にかつより多様な視点から学ぶ支援として有機的に機能することになります。

文明論の学びを基礎に、社会科学の科目を、国際政策・公共政策・環境政策の3つの政策コースに対応する形で幅広く開講します。学生はこれらの多様な科目の中から、段階的に政策の基礎知識を総合的に学び、その上で自らの興味と関心に応じて上記3コースより1つの政策コースを選択し、応用的かつ発展的知識を学びます。また、教室で学んだ学問の知識やスキルを足がかりに、フィールドを学びの場とするプログラムを通して幅広い視野と実践力を身につけます。

1年次には、「総合政策基礎演習」「文明論概論」、および【基礎科目】（[文明論科目]－「地域と文明」「環境と文明」「宗教と文明」など、[政策論科目]－「公共政策論」「国際政策論」「環境政策論」、[コア科目]－「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「行政法」「国際関係論」「現代国家論」「環境地理学」など）を軸とするコース共通科目を通して、本学部の目指す方向性を理解し、総合政策の基礎知識を学ぶとともに、大学での学習に必要なとなる基礎的技法と素養を身につけます。2年次には、コース共通科目の【基礎科目】と「総合政策と倫理」に加え、政策立案に必要なとなるスキルを身につけるための【方法論科目】（[調査と分析科目]－「統計解析」「社会調査法」など、[総合政策外国語科目]－「総合政策英語」「総合政策中国語」）を履修します。さらに、3年次のコース選択に備え、各コースを理解するために、[発展科目]として「行政学」「人権政策論」「グローバルガバナンス論」「エコシステム論」など、[応用科目]として「環境経済学」「人的資源管理論」「政治変動論」「国際開発論」などからなるコース科目も履修を始めます。

3年次には、国際政策、公共政策、環境政策の3コースから1コースを選択し、各コースに指定されたコース科目（[発展科目][応用科目]）を中心に、政策に繋がる専門性に特化した知識を学習します。また、さらなる高度な政策立案に必要なスキルを習得するために、【方法論科目】のうち[調査と分析科目]として「環境調査法」「空間情報分析法」「数量的アプローチ」「総合演習」、[総合政策外国語科目]として「ACADEMIC PATH ENGLISH」「CAREER PATH ENGLISH」「実践コミュニケーション中国語」「実践分析中国語」も選択履修できます。そして、ゼミ形式の「プロジェクト研究」を履修し、各自が具体的な政策課題を選び、4年次には各自が立てた具体的な政策課題について卒業論文を執筆します。さらに、4年間を通じて履修できるコース共通科目の[政策実践科目]として、国内外のフィールドワークによって現地の社会に触れ、体験から学ぶ「学外体験プログラム」や「政策研修プログラム」、政策現場で活躍している方々を講師に迎え、実践からの知識やスキルを学ぶ「政策の現場から」を開講します。

また、主にアジアの国と地域から入学定員の1割に相当する留学生を受け入れ、日常的な国際交流と異文化理解が可能となる環境を整えます。これらの留学生に対しては、入学前に日本語を未履修の学生であっても、1年半で日本語による専門教育を履修できるようにするための日本語プログラムを提供し、その後も[総合政策外国語科目]の「総合政策日本語」を通して総合政策を理解していくのに必要な知識を深めつつ、コース共通科目およびコース科目など専門科目を履修します。

各科目の学修成果は、講義概要に示された到達目標の達成度に応じて評価します。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fop.html>）

（公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/admission/nyushi/shubetsu/pdf/download_2025/2025gakkou_suisen.pdf?240604）

(概要) 総合政策学部では、大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本学部の教育課程を修めるために十分な基礎学力を備えていることに加えて、以下の資質を持つ人を受け入れるために、一般入試、全学統一入試、共通テスト利用入試、推薦入学審査（学園内高等学校、指定校、特別協定校）、特別入学審査（カトリック系高等学校等対象）、総合型入試、外国高等学校卒業者等入学試験、外国人留学生入学審査等の試験・審査を実施します。 ・国際関係、政治や経済、環境問題などの現代社会の諸問題に興味や関心のある人 ・地域固有の歴史や文化などに興味や関心があり、多様な価値観を理解しようとする人 ・机上の学習のみならず、フィールドに出て自らの目で見て学びたいと考えている人 ・いろいろな国や地域の人々と積極的にコミュニケーションを取りたいと考えている人 ・上記の資質を向上させるため、様々な社会活動や学習会等に積極的に参加してきた人 一般入試、全学統一入試および共通テスト利用入試では、本学部で学ぶための前提となる基礎学力（読解力、語学力など）を主に評価します。 推薦入学審査および特別入学審査では、基礎学力に加えて、本学部において勉学する目的の明確性や、専門領域に関する知識の程度、ならびに表現力や論理的思考力、判断力を、口頭試問もしくは面接と小論文によって評価します。加えて、特別入学審査では、高等学校在学中における諸活動への取り組みも評価します。 総合型入試では、上記の評価項目に加え、特に現場での実践的活動に対する積極性や主体性を、プレゼンテーションと口頭試問および小論文で評価します。 学校推薦型選抜（長期留学経験者対象）では、高等学校在学中の長期留学で得られた高い外国語運用能力と異文化に対する理解や関心を小論文・面接などで評価します。 外国高等学校卒業者等入学試験および外国人留学生入学審査では、主に日本語と英語の運用能力および本学部において勉学する目的の明確さや適性について評価します。 高校時の海外体験とそれに基づく高い言語運用能力を持つ生徒を受け入れるため、2024年度入試より、日本国内の高等学校在学中に継続して1学年（10か月程度）以上、留学した経験を持つ者を対象に、学校推薦型選抜（長期留学経験者対象）を開始している。
--

学部等名 理工学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/ 規程・学則「南山大学の目的に関する規程」）
(概要) 理工学部では、幅広い教養を学び、理学(数学・物理学・情報科学)の基礎の上に、所属学科の専門領域を主専門領域とし、所属学科のほかに1学科の領域を副専門領域として、その知識と技術を修得する。技術の普遍性と多様性を理解することで、産業構造の変化に伴い変容する技術を柔軟に適用(修得・応用)すること、機能および非機能の実現に必要な複数領域の技術を統合すること、多様な技術を創造的に組み合わせ新たな価値を持つ技術とすること、さらに、これらをグローバル化する情報化社会の中で実践していくことができる人材を養成することを目的とする。 卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fot.html) (概要) 理工学部は、南山大学の建学の理念に基づく「人間の尊厳のために」(Hominis Dignitati)という教育モットーを踏まえ、学部と各学科の教育により、以下の能力を身につけた者に学士(理工学)の学位を授与します。 ・専門領域の技術者に求められる行動規範を理解し、その実践を通じ、人間の尊厳を尊重することのできる能力 ・多様な技術背景を持つ人々との対話を通じ、互いの技術を理解し、協調して研究・開発等を行うことのできるグローバルな技術コミュニケーション能力 ・理学の基礎の上に、理学の応用として科学・工学技術を原理から理解することで、変容する技術を柔軟に修得し、その技術を製品開発や問題解決に応用する技術適用能力

- ・複数の専門領域における知識や技術の必要性を理解し、技術を統合することで必要な機能などを実現できる技術統合能力
- ・複数の専門領域における多様な知識や技術を創造的に組み合わせ、新しい価値を持つ技術とする技術創造能力

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fot.html>)

(概要)

理工学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を養成するために、共通教育科目、学部共通科目、学科科目を配置し、以下の考えに基づく教育課程を編成しています。

- ・共通教育科目では、大学のディプロマ・ポリシーに示す能力、人間の尊厳を尊重することのできる能力、グローバルな技術コミュニケーション能力の基礎となる語学に関する能力を養成します。

- ・学部共通科目と学科科目では、学部のディプロマ・ポリシーに示す能力を養成します。

- ・学部共通科目と学科科目の数学科目には、情報科学、数学、物理学などに関する理学的素養を涵養する科目を配置し、技術適用能力の基礎を培います。

- ・学科科目には、専門領域の知識・技術を教授する科目の他に、演習、実習系の科目も配置し、技術を実際に活用することで、技術適用能力を養成します。また、専門領域の技術を実践的に活用していくためのプログラミング能力・ICT能力を涵養する科目も配置します。

- ・学科科目には、PBLのような実践的な演習科目を含む副専攻科目を配置し、他専門領域の技術の理解を深め、英語の積極的な活用なども通じてグローバルな技術コミュニケーション能力を養うとともに、複数領域の技術を組み合わせる経験を通じて、技術統合能力を養成します。

- ・学科科目の卒業研究科目および演習系の科目では、特定の教員の指導の下に、能動的な教育環境で専門領域に関する学習と研究を行い、技術統合能力を養成します。さらに、副専門領域との学際領域における問題解決等をテーマとする卒業研究を通じて、技術創造能力を涵養します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fot.html>)

(公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/admission/nyushi/shubetsu/pdf/download_2025/gakkou_suisen.pdf?240604)

(概要)

理工学部では、大学のアドミッション・ポリシーに基づき、以下の資質を持つ入学者を受け入れるために、一般入試、全学統一入試、共通テスト利用入試、推薦入学審査（指定校、学園内高等学校、特別協定校）、特別入学審査（カトリック系高等学校等対象）、総合型入試（プレゼンテーション型）、学校推薦型選抜（長期留学経験者対象）、外国高等学校卒業生等入学試験、帰国生徒推薦入学審査（指定在外教育施設）、外国人留学生入学審査（本学受験型）、外国人留学生入学審査（EJU利用型）、外国人留学生別科留学生推薦入学審査の入学試験（審査）を実施しています。

- ・入学後に各学科での教育課程を修めるのに十分な基礎学力（特に、理学に関する知識・技能）を持っている。

- ・理学に関する知識・技能を活用して様々な問題を解決するために必要となる、思考力・判断力・表現力を持っている。

- ・コンピュータ、機械、通信などの技術とその数理的な説明について関心を持ち、それらを主体的に学ぼうとする意欲を持っている。

一般入試と全学統一入試、共通テスト利用入試、外国人留学生入学審査（EJU利用型）では、入学後に各学科で必要となる基礎学力である理学に関する知識・技能と、それを活用するための思考力・判断力・表現力を、数学、理科（物理、化学）の試験科目で評価し、外

国語（英語）の試験科目で評価する英語の知識・技能と併せ、総合的に評価します。外国人留学生入学審査（EJU 利用型）では、これらに加え、各学科の専門領域に対する学習意欲や目的意識を評価します。

推薦入学審査（指定校、学園内高等学校、特別協定校）および特別入学審査（カトリック系高等学校等対象）では、基礎学力の中でも数学に関する知識・技能と、思考力・判断力・表現力を重視します。小論文では、科学技術に関する文章を読解し、論理的思考に基づいて判断し、表現する能力を評価します。口頭試問では、各学科の専門領域に対する学習意欲や目的意識、自らの考えを論理的に表現する能力を評価します。

総合型入試（プレゼンテーション型）では、基礎学力の中でも数学に関する知識・技能と、思考力・判断力・表現力を評価します。特に、プレゼンテーション、質疑応答、小論文などを通じて、論理的思考力や表現力を評価します。

学校推薦型選抜（長期留学経験者対象）、外国高等学校卒業者等入学試験、帰国生徒推薦入学審査（指定在外教育施設）、外国人留学生入学審査（本学受験型）、外国人留学生別科留学生推薦入学審査では、大学のアドミッション・ポリシーに挙げられた点に加え、数学に関する知識・技能、思考力・判断力・表現力と、各学科の専門領域に対する学習意欲や目的意識、論理的表現力を評価します。

高校時の海外体験とそれに基づく高い言語運用能力を持つ生徒を受け入れるため、2024年度入試より、日本国内の高等学校在学中に継続して1学年（10か月程度）以上、留学した経験を持つ者を対象に、学校推薦型選抜（長期留学経験者対象）を開始している。

学部等名 国際教養学部

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/>
規程・学則「南山大学の目的に関する規程」）

（概要）

国際教養学部は、21世紀の情報・知識基盤社会で活躍するための批判的思考・情報リテラシー等のスキルならびに他者との相互理解を促進するためのコミュニケーション能力育成を基盤としつつ、文化・制度の垣根や境界を乗り越えて異なるイデオロギーや価値観を尊重し、将来に向けて持続可能な世界とするために積極的に活動できるような人材を養成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針

（公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fog.html>）

（概要）

国際教養学部では、「人間の尊厳のために」（*Hominis Dignitati*）という南山大学の教育モットーを踏まえ、グローバル社会における諸問題や持続可能な社会の構築のための諸課題を分析し、国や地域の枠を超えて他者と協働しながら、その解決に向けて積極的に行動できる人材の育成を目指します。そのために、以下の知識、能力、スキルを身につけた学生に学士（国際教養学）の学位を授与します。

- ・現代の諸問題をグローバルな視点とローカルな視点から理解できる能力
- ・批判的思考、資料調査、文献読解、文書作成等のスキル
- ・他者との相互理解を促進するための外国語を含むコミュニケーション能力
- ・専門とする学問分野についての深い知識
- ・実社会が直面している課題に対して教養と知識を用いて解決できる能力
- ・人間の尊厳の実現を目指した持続可能かつ公正で包摂的な社会のあり方についての創造的なビジョンを持ち、その実現に向けて論理を構築し、発信できる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fog.html>）

(概要)

国際教養学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を養成するために、共通教育科目と学科科目を配置します。

共通教育科目では、南山大学のディプロマ・ポリシーに掲げる能力を養成します。

学科科目では、人文学を基礎としながら、グローバルな諸問題について学ぶ「グローバル・スタディーズ」と持続可能な社会の構築に向けた様々な取り組みを学ぶ「サステナビリティ・スタディーズ」を2つの軸として教育課程を編成します。講義と演習を組み合わせた授業の中にアクティブ・ラーニングを取り入れて主体的な学びを促す科目や、英語と日本語の二言語で運営することによって高度な外国語運用能力を身につける科目を特徴としています。学科科目は「国際教養学基礎科目」「グローバル・スタディーズ科目」「サステナビリティ・スタディーズ科目」「インターファカルティ科目」「実践知形成科目」「演習科目」で構成されます。

1年次と2年次に開講される「国際教養学基礎科目」は、「技法知の基礎科目」「市民的教養の基礎科目」「学問知の基礎科目」の3つの科目群から構成され、それらの科目においてアカデミック・スキルの習得、教養を備えた市民に必要な素養、広範な学問分野の基礎知識を涵養します。また、他者との相互理解・交渉に必要とされる外国語によるコミュニケーション能力を養う必修科目では、日本語と英語のほかに第二外国語を学習し、欧州評議会が提案している複言語主義に基づく三言語を運用できる能力を育成します。

3年次に開講される「グローバル・スタディーズ科目」では、文化、言語、民族、宗教、国際関係、メディア、情報技術などの学問分野を学ぶ専門科目を通して、今日のグローバル社会を理解するための多角的な視点を涵養します。また「サステナビリティ・スタディーズ科目」では、倫理、民族、文化、生態系、国際経済、開発などの学問分野を学ぶ専門科目を通して、持続可能な社会を構想し実現するための能力を身につけます。

「インターファカルティ科目」では、世界の様々な国・地域および様々な学問分野を対象とする外国語学部と総合政策学部の諸科目を領域横断的に履修することで、国際教養学部のグローバル・スタディーズおよびサステナビリティ・スタディーズ科目を通して身につけた知識と能力をより広く深いものとします。

「実践知形成科目」では、2年次に海外の大学でサステナビリティについて専門的に学ぶ短期海外プログラム「ASU Sustainability Program」を通して、世界の諸課題の解決策を高度な英語運用能力を用いて考案する能力を身につけます。また3年次の「GLS フィールドワーク」では、英語圏および英語圏以外の大学・教育機関で研修するとともに、現地の企業やNPOで実地体験を積むことによって、世界の様々な地域で問題解決に取り組むことのできる能力を育成します。

「演習科目」では、2年次の基礎演習で、1年次で修得したアカデミック・スキルを駆使して地域社会およびグローバルな課題について研究します。また、「PBL演習」では、実践的な取り組みを通じて課題を解決する能力を養います。3・4年次に開講される「演習」「アドヴァンスト演習」「卒業論文研究」では、グローバル社会の諸問題の解決や持続可能な社会の実現を目指して、学生は各々の関心に応じたテーマを設定し、指導教員の指導の下で卒業論文を執筆し、統合的に学修を完成します。

各科目の学修成果は、講義概要に示された到達目標の達成度に応じて評価します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fog.html>)

(公表方法：https://www.nanzan-u.ac.jp/admission/nyushi/shubetsu/pdf/download_2025/2025gakkou_suisen.pdf?240604)

(概要)

国際教養学部では、大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本学部の教育課程を修めるために十分な基礎学力を備えていることに加えて、以下の資質を持つ人を受け入れるために、一般入試、全学統一入試、共通テスト利用入試、推薦入学審査(学園内高等学校、指定校、特別協定校)、特別入学審査(カトリック系高等学校等対象)、総合型入試(プレゼンテーション型)、外国高等学校卒業生等入学試験、外国人留学生入学審査等の試験・審査を実施します。

- ・基礎的な情報収集能力、論理的思考力、洞察力を備えた人
- ・現代社会の諸課題を理解するために必要な幅広い教養と深い専門知識を身につけようとする人
- ・コミュニケーション能力や異文化理解力を高める意欲のある人
- ・グローバル社会で生起する問題を解決しようとする強い志を持った人
- ・国・地域の枠を超えた多様な文化的背景をもつ人々と協働し、グローバル社会の持続可能な発展に寄与したいと考える人

一般入試、全学統一入試および共通テスト利用入試では、本学部で学ぶための前提となる基礎学力、とりわけ外国語、国語、歴史、数学についての知識を主に評価します。一般入試の外国語試験においてリスニングテストを課して英語の運用能力を評価します。

推薦入学審査および特別入学審査では、小論文および面接によって、基礎学力に加えて、本学部において勉学する目的の明確性、口頭および文章による表現力や論理的思考力を評価します。加えて、特別入学審査では、高等学校在学中の様々な活動への取り組みも評価します。

総合型入試[プレゼンテーション型]では、プレゼンテーション、面接、小論文などを通じて、日本語と英語の論理的思考力や表現力を評価します。

学校推薦型選抜（長期留学経験者対象）では、高等学校在学中の長期留学で得られた高い外国語運用能力と異文化に対する理解や関心を小論文・面接などで評価します。

外国高等学校卒業者等入学試験、外国人留学生入学審査および外国人留学生推薦入学審査（指定校）では、日本語と英語の運用能力および本学部において勉学する目的の明確さや適性について評価します。

高校時の海外体験とそれに基づく高い言語運用能力を持つ生徒を受け入れるため、2024年度入試より、日本国内の高等学校在学中に継続して1学年（10か月程度）以上、留学した経験を持つ者を対象に、学校推薦型選抜（長期留学経験者対象）を開始している。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：

学部・学科 <https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/>

大学院 <https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/>

研究所・研究センター <https://rci.nanzan-u.ac.jp/rc-ri/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	5 人	－					5 人
人文学部	－	34 人	18 人	7 人	0 人	0 人	59 人
外国語学部	－	22 人	15 人	8 人	0 人	0 人	45 人
経済学部	－	16 人	8 人	2 人	0 人	0 人	26 人
経営学部	－	15 人	10 人	1 人	0 人	0 人	26 人
法学部	－	16 人	6 人	2 人	0 人	0 人	24 人
総合政策学部	－	20 人	4 人	0 人	0 人	0 人	24 人
理工学部	－	32 人	3 人	3 人	0 人	0 人	38 人
国際教養学部	－	11 人	8 人	2 人	0 人	0 人	21 人
教養部（一般教育）	－	6 人	7 人	19 人	0 人	0 人	32 人
大学院	－	13 人	0 人	0 人	0 人	0 人	13 人
附置研究所	－	5 人	3 人	1 人	1 人	0 人	10 人
その他	－	4 人	2 人	10 人	5 人	0 人	21 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		428 人					428 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：https://porta.nanzan-u.ac.jp/research/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人文学部	340 人	332 人	97.6%	1370 人	1482 人	108.2%	5 人	0 人
外国語学部	390 人	438 人	112.3%	1584 人	1697 人	107.1%	12 人	9 人
経済学部	275 人	330 人	120%	1100 人	1209 人	109.9%	0 人	0 人
経営学部	270 人	300 人	111.1%	1080 人	1159 人	107.3%	0 人	0 人
法学部	275 人	271 人	98.5%	1100 人	1183 人	107.5%	0 人	0 人
総合政策学部	275 人	288 人	104.7%	1120 人	1178 人	105.2%	10 人	7 人
理工学部	270 人	247 人	91.5%	1080 人	1108 人	102.6%	0 人	0 人
国際教養学部	150 人	156 人	104%	610 人	645 人	105.7%	5 人	4 人
合計	2245 人	2362 人	105.2%	9044 人	9661 人	106.8%	32 人	20 人

(備考)

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人文学部	288 人 (100%)	16 人 (5.6%)	249 人 (86.5%)	23 人 (8.0%)
外国語学部	347 人 (100%)	7 人 (2.0%)	319 人 (91.9%)	21 人 (6.1%)
経済学部	255 人 (100%)	1 人 (0.4%)	232 人 (91.0%)	22 人 (8.6%)
経営学部	251 人 (100%)	3 人 (1.2%)	239 人 (95.2%)	9 人 (3.6%)
法学部	240 人 (100%)	8 人 (3.3%)	211 人 (87.9%)	21 人 (8.8%)
総合政策学部	256 人 (100%)	3 人 (1.2%)	235 人 (91.4%)	19 人 (7.4%)
理工学部	221 人 (100%)	49 人 (22.2%)	165 人 (74.7%)	7 人 (3.2%)
国際教養学部	150 人 (100%)	7 人 (4.7%)	130 人 (86.7%)	13 人 (8.7%)
合計	2,008 人 (100%)	94 人 (4.7%)	1,780 人 (88.6%)	135 人 (6.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
人文学部	313 人 (100%)	259 人 (82.7%)	45 人 (14.4%)	9 人 (2.9%)	0 人 (%)
外国語学部	379 人 (100%)	262 人 (69.1%)	104 人 (27.4%)	13 人 (3.4%)	0 人 (%)
経済学部	267 人 (100%)	233 人 (87.3%)	27 人 (10.1%)	7 人 (2.6%)	0 人 (%)
経営学部	263 人 (100%)	232 人 (88.2%)	26 人 (9.9%)	5 人 (1.9%)	0 人 (%)
法学部	268 人 (100%)	224 人 (83.6%)	34 人 (12.7%)	10 人 (3.7%)	0 人 (%)
総合政策学部	268 人 (100%)	225 人 (84.0%)	37 人 (13.8%)	6 人 (2.2%)	0 人 (%)
理工学部	257 人 (100%)	203 人 (79.0%)	38 人 (14.8%)	16 人 (6.2%)	0 人 (%)
国際教養学部	156 人 (100%)	118 人 (75.6%)	31 人 (19.9%)	7 人 (4.5%)	0 人 (%)
合計	2171 人 (100%)	1756 人 (80.9%)	342 人 (15.8%)	73 人 (3.4%)	0 人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
授業計画（シラバス）記載項目の留意点および記載例を、各科目担当教員に配付し、コーディネータは、自身の担当するコーディネータ科目の全シラバスの内容確認を行う。なお、コーディネーターは、単なる編集上の確認（記載内容の有無や語句修正等）だけでなく、カリキュラムポリシーに基づき確認を実施している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

南山大学授業科目履修規程にて、授業科目を履修した者に対しては、原則として試験の上、成績を判定し、単位を与えることを定めている。履修成績は、南山大学試験規程により実施される定期試験または追試験の成績と平常の成績を考慮して定めることとしている。

南山大学では、卒業の認定に関する方針および卒業要件（4年以上在学して学部学科所定の単位を修得）を満たす者について、学部教授会、大学評議会の審議を経て、学長が卒業を認定している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人文学部	キリスト教学科	128 単位	有	48 単位
	人類文化学科	128 単位	有	48 単位
	心理人間学科	128 単位	有	48 単位
	日本文化学科	128 単位	有	48 単位
外国語学部	英米学科	128 単位	有	44 単位

	スペイン・ラテンアメリカ学科	128 単位	有	44 単位
	フランス学科	128 単位	有	44 単位
	ドイツ学科	128 単位	有	44 単位
	アジア学科	128 単位	有	44 単位
経済学部	経済学科	128 単位	有	48 単位
経営学部	経営学科	128 単位	有	44 単位
法学部	法律学科	132 単位	有	42 単位 (1, 2 年次) 44 単位 (3 年次以上)
総合政策学部	総合政策学科	128 単位	有	48 単位
理工学部	ソフトウェア工学科	125 単位	有	44 単位
	データサイエンス学科	125 単位	有	44 単位
	電子情報工学科	125 単位	有	44 単位
	機械システム工学科	125 単位	有	44 単位
	ソフトウェア工学科 (旧)	128 単位	有	48 単位
	システム数理学科	128 単位	有	48 単位
	機械電子制御工学科	128 単位	有	48 単位
国際教養学部	国際教養学科	124 単位	有	44 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 : https://office.nanzan-u.ac.jp/KYOUNU/exam-grade/grade03.html		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 :

キャンパスマップ <https://www.nanzan-u.ac.jp/CMAP/nagoya/campus-nago.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
人文学部	キリスト 教学科 (1～4年 次)	750,000円	250,000円	240,000円	教育充実費
	人類文化 学科 (1～4年 次)	750,000円	250,000円	240,000円	教育充実費
	心理人間 学科 (1～4年 次)	750,000円	250,000円	240,000円	教育充実費
	日本文化 学科 (1～4年 次)	750,000円	250,000円	240,000円	教育充実費
外国語学 部	英米学科 (1～2年 次)	750,000円	250,000円	258,000円	教育充実費、実習費
	英米学科 (3～4年 次)	750,000円	250,000円	249,000円	教育充実費、実習費
	スペイン・ラテ ンアメリ カ学科 (1～4年 次)	750,000円	250,000円	240,000円	教育充実費
	フランス 学科 (1～4年 次)	750,000円	250,000円	240,000円	教育充実費
	ドイツ学 科 (1～4年 次)	750,000円	250,000円	240,000円	教育充実費
	アジア学 科 (1～4年 次)	750,000円	250,000円	240,000円	教育充実費
経済学部	経済学科 (1～4年 次)	750,000円	250,000円	240,000円	教育充実費
経営学部	経営学科 (1～4年 次)	750,000円	250,000円	240,000円	教育充実費
法学部	法律学科 (1～4年 次)	750,000円	250,000円	240,000円	教育充実費
総合政策 学部	総合政策 学科 (1～4年 次)	750,000円	250,000円	240,000円	教育充実費

	次)				
理工学部	ソフトウェア工学科 (1～4年次)	750,000 円	250,000 円	340,000 円	教育充実費
	データサイエンス学科 (1～4年次)	750,000 円	250,000 円	340,000 円	教育充実費
	電子情報工学科 (1～4年次)	750,000 円	250,000 円	340,000 円	教育充実費
	機械システム工学科 (1～4年次)	750,000 円	250,000 円	340,000 円	教育充実費
国際教養学部	国際教養学科 (1～4年次)	750,000 円	250,000 円	240,000 円	教育充実費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 心身の健康への支援という面では、保健センター・学生相談室において学校医（精神科医/内科医）ならびに専門カウンセラー（公認心理師・臨床心理士）が学生の各種悩みに個別面談形式で対応している。 また、コミュニケーションの問題、あるいは、得意な領域と不得意な領域に差があり、困難を感じている学生など、修学面で困難を抱える学生一人ひとりの実情に対応した学習環境を整えるための相談窓口を保健センター・大学生生活支援室に設け、支援している。それらの普段の支援に加え、保健センター主催で講演会等を開催している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 学生一人ひとりが希望する進路先に進むことができること、大学の授業や学生生活全般を通じて自立した社会人に成長させることを基本方針とする。キャリアサポート、インターシップ、就職支援の3つのプログラムを中心に、正課の授業や正課外の多彩なプログラムを低年次から段階的に配置し、学生のキャリア形成と社会的・職業的自立を支援している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生が心身ともに健康に修学できるように専門的な視点で、保健センターを中心に支援を行っている。保健センターの主な活動は、「健康管理」「学生相談」「修学支援（障がい学生等合理的配慮支援含む）」。 今日の健康管理は、「一次予防」（健康の保持増進）、二次予防（疾病の早期発見・早期治療）、三次予防（疾病の管理と適応の向上）を包括的行うことが大切であり、保健室では、学生定期健康診断の実施に加えて、学校医や看護師による応急処置や健康相談を通じて、学生の健康管理を行っている。 また、ライフサイクルの視点でみると、学生時代は、青年期の終わりの時期にあたり、親からの自立や友人との関係の構築とともに、自分自身のアイデンティティの形成など、さまざまな課題があり、人生において大切な時期である。学生相談室では、このような課題に関連

したさまざまな困難に直面した学生に対する支援として、カウンセラー（公認心理師/臨床心理士）による学生相談と精神科医による精神保健相談を行っている。
その他、障害者差別解消法施行に基づいて、身体や感覚機能などに障がいをもつ学生、合理的配慮が必要な学生の支援を行っているが、その中で大学生活支援室では、専門医師や修学支援コーディネーターによる「専門的支援」を行っている。
加えて、保健センター3室では、それぞれが主催で学生支援講座・講習会を開催している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

公開データ一覧 <https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F123310106648
学校名（〇〇大学 等）	南山大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人南山学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		566人	549人	－
内 訳	第Ⅰ区分	328人	334人	
	第Ⅱ区分	149人	154人	
	第Ⅲ区分	89人	61人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				－
合計（年間）				602人
(備考)				

- ※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

【2024年度(令和6年度)】

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	—	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	—	人	人
「警告」の区分に連続して該当	—	人	人
計	15人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	—	前半期	人	後半期	人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

【2024年度(令和6年度)】

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	22人
(備考) 年間計には、適格認定における学業成績の判定の結果、2回連続で「警告」となった場合のうち、2回目の「警告」がGPA等が学部等における下位4分の1の範囲に属したことにより「停止」となった者を含む。	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	0人	人	人
G P A等が下位4分の1	93人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	23人	人	人
計	103人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。